

2023年 11月 卒後藤谷塾 議事録
開催日 2023年 11月 8日 (水) 7:00~8:00

■活動報告

- ①所属部署
- ②活動内容
- ③困っていること、その他相談など

【6期生】

A (山梨県)

- ① 看護部
- ② 透析室
- ③ なし

B (茨城県)

- ① 看護部 病棟
- ② 病棟勤務 (看護師業務)、特定行為実践
- ③ なし

C (三重県)

- ① 看護部
- ② 病棟勤務
- ③ なし

D (神奈川県)

- ① 特定集中治療室
- ② 看護業務、急変時対応チーム活動
- ③ なし

【7期生】

E(神奈川県)

- ① 看護部
- ② 特定行為実施、病棟管理、急変対応、血管内手術助手、開頭手術助手、初診外来患者対応
救急初期対応
- ③ なし

F(福岡県)

- ① 看護部

- ② 内科研修と救急外来研修、内科入院患者の入院管理と救急外来での初療、特定行為実践
- ③ なし

G(愛知県)

- ① 看護部
- ② 内科・麻酔科研修、整形外科の手術助手・病棟管理、特定行為実践
- ③ なし

H(神奈川県)

- ① 総合診療部 ICU 勤務
- ② ICU 患者担当、指導医の指導を受けながら診療へ介入、微量元素チーム
特定行為 (A line、PICC など)、ラピッドレスポンス担当
- ③ なし

J(神奈川県)

- ① 看護部 消化器内科研修中
- ② 入院患者の対応、救急初診対応、点滴・検査の代行オーダー、特定行為の実施
- ③ なし

■症例発表

タイトル：悪寒戦慄・意識障害を伴う発熱を認めた一例

一文サマリー：小児喘息、脂質異常症の既往がある ADL 自立した 50 代女性。1~2 週間前より腰痛を自覚、入院前日に頭重感と悪寒戦慄を伴う発熱と意識障害のため救急要請となった症例。

Active Problem List

- # 1 発熱
- # 2 意識障害
- # 3 悪寒戦慄
 - # 細菌性髄膜炎疑い
 - # 非細菌性髄膜炎疑い
 - # 脳炎疑い
 - # 腎盂腎炎疑い
- # 4 低 K 血症

初療では髄膜炎 dose で抗菌薬治療を開始。翌日、解熱して意識障害は改善したが、腰痛と血尿が持続したため腹部造影 CT を撮像して、右腎の被膜を伴わない欠損像を認めた。急性細菌性巣状腎盂腎炎と最終診断した。血液培養で *Klebsiella pneumoniae* が検出されたため、CTRX から CEZ

に de-escalation して加療を継続した。

急性細菌性巣状腎盂腎炎（Acute focal bacterial nephritis：AFBN）

- ・ 上部尿路感染症に属する急性腎盂腎炎と腎膿瘍の中間型と考えられている。
- ・ 適時適切な診断と治療を行わないと、腎膿瘍に発展する可能性がある。
- ・ 発熱と側腹部痛を高頻度に認めるが、それ以外の所見および特異的所見に乏しい。
- ・ 起病菌は 40%が大腸菌、40%は尿培養陰性。
- ・ 診断は造影 CT がゴールドスタンダード。
- ・ 抗菌薬治療は 3~4 週間を推奨

総合考察

熱源不明で身体所見や検査所見が乏しい症例は、改めて鑑別し再評価して、適時適切な診断、治療ができるよう努める。

<塾長>

- ・ 臨床推論の観点からは鑑別を挙げながら質問することが重要。
- ・ 画像検査結果がわかる前に鑑別を挙げて考えることが重要。
(膿尿がないのになぜ腎盂が拡張しているのか、なぜ菌血症があるのか、意識障害がどのように関連するのか、など議論する)
- ・ 臨床像を十分に説明できない場合は、多角的視点で考察し、情報を批判的に吟味しながら、あらゆることを想定して推論しなければならない
(すでに抗菌薬が投与されていた可能性を疑う、など)